

1 身体と時間を使って人を喜ばす

「下座^{げざ}はいっさいのものを抱容する」という言葉があります。

豊かな現代社会においては、「下座行」と呼ぶに値する行為が少なくなってきました。「下座行」とは、自分の身を低くして、手足を動かし^{いと}厭わずに行うこと。しかも、人から顧みられないような行為を実践することです。

そうした行為が少なくなるなかで、この「下座行」にふさわしい唯一の実践が、「掃除をすること」であり、手書きの「手紙を書くこと」ではないかと思います。

鍵山さんも、「時間と身体を使って人を喜ばす」と語ったなかで、その代表的な実践として「掃除」と「手紙」をあげています。



人を喜ばす基本

人を喜ばすことが、自分の人生をよくし、世の中をよくすることだと確信しています。人を喜ばす基本として、私は、できるだけ自分の時間と身体を使うように努めています。私が実践している代表的な一例は、「手紙」を書くことと「掃除」をすることです。

「手紙」を書くことは、だれもが億劫なことです。よほど相手のことを思わなければ、できることはありません。しかも、手紙を書くときは、相手のことばかりを考えなければ書くことができません。

その人のためだけに、自分の時間を使い、感謝の念を膨らませます。人が人に熱意や誠意を感じる時は、そういう行為に対してではないでしょうか。その人のためだけに頭のなかをいっぱいにして書いたそんな手紙は、かならず人に喜んでもらえるかと確信して書き続けています。

これまで鍵山さんは、いただいた手紙や贈り物に対してかならず返事を書いてきました。例外は一切ありません。その際、利用してきたのが「複写はがき」です。

二度とない人生だから、ひとりでも多く便りをしよう

私が「複写はがき」を書き始めて、2014年9月で約23年が過ぎました。

これまでに書いてきた「複写はがき」は、約68,250枚。「複写はがき」を書くのに使ったボールペンの使用済み芯の数は、253本になりました。

この「複写はがき」の控えとボールペンの芯が、今では私の宝物になっています。

私のもとに毎日届けられる手紙やはがきの数は、少ないときでも20～30通。多いときは、50～60通になることもしばしばあります。講演会のあととか、出張から帰宅したときなどはさらに枚数が増えます。

届いた手紙に返事を書くには当然、多くの時間と労力を要します。書き始める前はいつも、返事の枚数を思い浮かべるだけで億劫になります。しかし私は、他の何よりも優先してこの返事を書くようにしています。

私が手紙をもらってうれしいように、私の手紙を待っている人がいることを思い浮かべると書かずにおれません。お便りをくださった人のお気遣いに対して、自分の時間と身体を使ってお応えするように努めています。

鍵山さんはこのように、人との縁をつなぐ方法として「複写はがき」を活用しています。相手の誠意に応えるためには、自分の持っている時間と身体を使う以外にない、という考えです。そして、そのことが唯一、自分にできる相手を喜ばす方法であると信じて、実践しています。

この「複写はがき」以上に、永年実践してきたのが掃除です。

この掃除の実践についても、鍵山さんはつぎのように語っています。

掃除をすると喜ばれる

掃除も、どちらかという、だれもが避けて通りたいことのひとつです。しなくてもいいのなら、できればしたくないと、だれもが考えています。それだけに、自ら率先して掃除をすると、周囲の人々からたいへん喜ばれます。

掃除をして喜ばれるのは、きれいになるからということだけではありません。掃除をしている姿そのものが、人に謙虚な印象を与え、好感を持たれるからだと思います。

このように、人を喜ばす基本は時間と身体を使って、今、自分にできることをすることです。この、手抜きをしない熱意と誠意が喜ばれる基本だと思えます。

鍵山さんは、現代における「下座行」とも呼ぶべき手書きの「『複写はがき』を書く」とこと、「掃除をする」ことによって、人を喜ばす実践をしてきました。

そして、こうした「下座行」の実践が、自分の運命をも変える大きな力になったと述懐しています。

運命を切り開く具体的方法

芥川龍之介は「運命はその人の性格の中にあり」ということをいっています。何事かをなし遂げるのは、その人の才能ではなく、性格です。性格を変え

るためには、今までの考え方を換え、習慣を変えることです。そうすれば運命が変わります。

具体的には、「下座行」に取り組むことがもっとも効果的だと思います。

「下座行」が性格を変えるのに効果的なのは、自分自身の行いを通して、自ら学ぶことができるからです。私は「下座行」ともいべきトイレ掃除を、50 数年間続けてきました。

掃除に参加した人に、ほうきの使い方や雑巾の絞り方まで細かく指導することがあります。あえて注意するのは、よいと思われることを確実に実行してほしいからです。自分を変えるきっかけは、身体を通して実感することから始めてもらいたいからです。

つぎに、私なりの運命を切り開く具体的な方法を列記します。

- ①「自分の運命を変えるためにできることは何か」を自問自答する。
 - ②答えが見つかったら即実践。
 - ③その際、やるべきことの大小、軽重は無関係。
 - ④大切なことは、手間ひまを惜しまず一所懸命打ち込むこと。
- こうした実践を積み重ねることで、かならず運命は変わります。

世の中には大きく分けて、一流の人、二流の人、三流の人がいます。

一流の人は、すぐやる人。

二流の人は、あとでやる人。

三流の人は、あとでやるといってやらない人。

掃除をしていると、すぐやる行動力が自然と身につくようになります。